

Kowa News

酷使した眼を、奥から癒す！

Q&P
KOWA

i PLUS
眼精疲労・肩こり

キューピーコーワ*i*プラス

新発売



平成 27 年 4 月 6 日



興和株式会社
興和新薬株式会社

平成 27 年 4 月 6 日、興和株式会社(本店 名古屋市 社長 三輪 芳弘)は、眼精疲労や肩こりの症状緩和などに効果を発揮する「キューピーコーワ*i* プラス」(第 3 類医薬品)を新発売いたします。

パソコンやスマートフォン、タブレット端末の継続的な使用などからくる眼の奥の疲れ(眼精疲労)や肩こりは、血行不良や筋肉の緊張などが原因で生じる症状です。「キューピーコーワ*i* プラス」は、これらの症状を緩和するビタミン B₁ を身体へ取りこまれやすくした活性型ビタミン B₁(ベンフォチアミン)を主成分として、7 種類の有効成分を同時配合しています。キューピーコーワ*i* ブランドとして初めて末梢血管を拡張して血流量を増加させるヘプロニカートを配合し、さらにオキソアミチン末(ニンニクの抽出成分)などの有効成分も同時配合しています。本剤をおのみになりますと、有効成分が血流に乗って補給され、エネルギー代謝を改善し、眼の奥の疲れや肩こりをラクにしてくれます。

【キューピーコーワ*i* プラスの特長】

- 1)「キューピーコーワ*i* プラス」は、疲れた神経や筋肉などに不可欠な活性型ビタミン B₁(ベンフォチアミン)を配合したビタミン B₁ 主薬製剤です。
- 2)「キューピーコーワ*i* プラス」は、末梢血管を拡張して血流量を増加させるヘプロニカートを新配合し、さらにビタミン B₁ の吸収促進や血流促進の働きがあるオキソアミチン末(ニンニク抽出成分)などを同時配合しました。
- 3)「キューピーコーワ*i* プラス」は、酷使した眼を奥から癒し、眼精疲労や肩こりをラクにしてくれます。

【効能・効果】

1. 次の諸症状の緩和：
眼精疲労、筋肉痛・関節痛(肩こり、腰痛、五十肩など)、神経痛、手足のしびれ、便秘
2. 脚気
「ただし、これら 1・2 の症状について、1 ヶ月ほど使用しても改善がみられない場合は、医師又は薬剤師に相談してください。」
3. 次の場合のビタミン B₁ の補給：
肉体疲労時、病中病後の体力低下時

【用法・用量】

下記の量を服用すること

年齢	1 回量	1 日服用回数
成人(15 歳以上)	2~3 錠	1 回
15 歳未満の小児	服用しないこと	

【成分・分量:3錠中】

成 分	分 量	働 き
ヘプロニカート	100.0 mg	末梢血管を拡張し、血流量を増加させることで、すぐれた血流促進効果を発揮します。
ベンフォチアミン 〔チアミン塩化物塩酸塩(V. B ₁)として〕	138.3mg (100.0mg)	活性型ビタミン B ₁ と呼ばれ、筋肉・神経の働きを円滑にし、眼精疲労をはじめ、身体の疲れなどに効果を発揮します。
オキソアミチン末	60.0mg	ニンニクから抽出した成分で、ニンニク特有のニオイが抑えてあります。ビタミン類の吸収促進作用や血流促進作用によって眼精疲労などに効果を発揮します。
L-アスパラギン酸マグネシウム・カリウム	300.0mg	体内でのエネルギー産生を助け、眼精疲労、肩こりなどに効果を発揮します。
ガンマ-オリザノール	10.0mg	有効成分が協調して働くことで、筋肉・神経の働きを円滑にし、肩こり、腰痛などを改善します。
シアノコバラミン(V. B ₁₂)	60.0μg	
トコフェロールコハク酸エステルカルシウム 〔dl-α-トコフェロールコハク酸エステル(V.E)として〕	51.79mg (50.0mg)	

[添加物]ヒドロキシプロピルセルロース、セルロース、クロスポビドン、ステアリン酸 Mg、ヒプロメロース、白糖、アクリル酸エチル・メタクリル酸メチル共重合体、ポリオキシエチレンニルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコール、タルク、アラビアゴム、炭酸 Ca、ゼラチン、酸化チタン、カルナウバロウ

【包装・希望小売価格(税抜)】

27 錠	1,200 円
80 錠	2,600 円
180 錠	5,500 円

商品サイト URL

<http://hc.kowa.co.jp/otc/8223/>

商品のお問い合わせ

興和株式会社 お客様相談センター

TEL:03-3279-7755

その他のお問い合わせ

興和株式会社 広報第二部

TEL:03-3279-7392

【参考資料】

眼精疲労とは

視作業(眼を使う作業)を続けることにより、眼痛・眼のかすみ・まぶしさ・充血などの眼の症状や、頭痛・肩こり・吐き気などの全身症状があらわれ、休息や睡眠をとっても十分に回復できない状態をいいます。

疲れ目※の症状が蓄積・進行することで、眼精疲労となっていきます。

※一定以上の視作業の結果、一時的に作業能率が低下する現象。一定の休息によって疲労が容易に回復するもの

眼の疲れに関する調査結果

「眼精疲労」と「疲れ目」の違いを
知らなかった人が **約8割**



N=100
自社調べ(2014.11)



眼精疲労がどのような症状かを具体的に示したうえで質問すると、実は多くの方が「眼精疲労」と「疲れ目」の違いを知らなかったことが判明しました。

最近1年間で、
約6割の人が**眼の疲れ**を経験している

「最近1年間で経験した症状・慢性化した症状」を質問し「眼の疲れ」と回答した人の割合

